

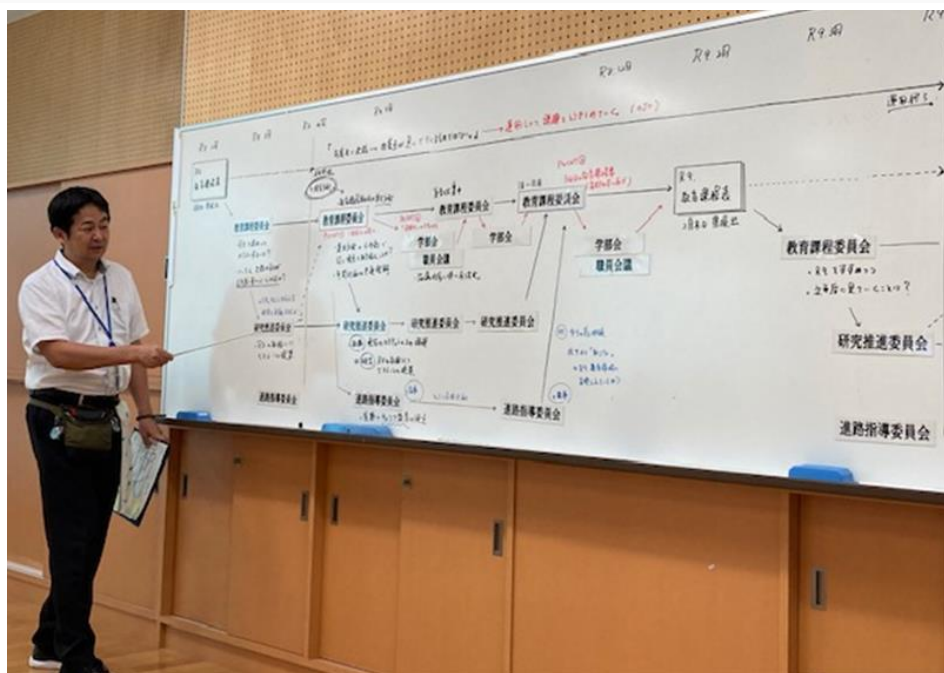
カリマネの新スタイル

前号(vol.6「つながりが創る豊かな教育」)では、『第4期 長崎県教育振興基本計画』の紹介と、そこから着想を得た中高一貫したキャリア教育の今後の展開について紹介しました。

更にもう一つ、つながりをもって機能的に取り組んでいこう、と校内で検討してきたことがあります。

検討の背景には、学部ごとの規模が大きな学校では、学部単位でまとまって物事を考えたり、進めたりする機会が多いということです。ゆえに、小中高の一貫性や連続性、系統性といったキーワードのもと、教育課程に関わる学部相互の‘つながり’を考えて編成していく業務になると、それぞれの枠組みを往還するのに時間と手間の両方かかってしまうという状況がないでしょうか。

この夏、虹の原では、既存の委員会や分掌部の役割、位置づけ、相互の関係性などを改めて確認し、学部間のつながりをより意識した検討の在り方や、教育課程に関する研究が走り、それとは別に研究部等による研究テーマが走っている、といった2重3重に教職員の負担感が増すような校内の研究体系にならないようアイデアを出し合いながら、教育課程の P-D-C-A サイクルが効果的、かつ効率的に機能させる新スタイルを来年2月から導入していきます。



『令和7年度 学校経営方針』で、今年度の重点取組事項の一つに「②小・中・高一貫した教育課程の編成と系統性のある指導の充実」を掲げています。

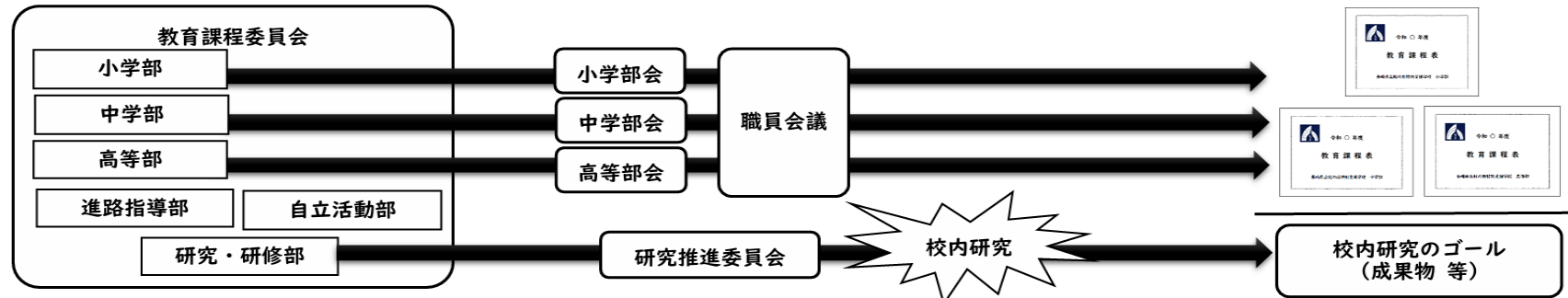
「聞く力」、「創る力」、「繋がる力」を大切にして魅力ある虹の原の教育を展開する

- 「R7年度 学校経営方針」でめざす！ -

教育課程委員会の在り方について【7月11日実施の打合せ会（報告）】

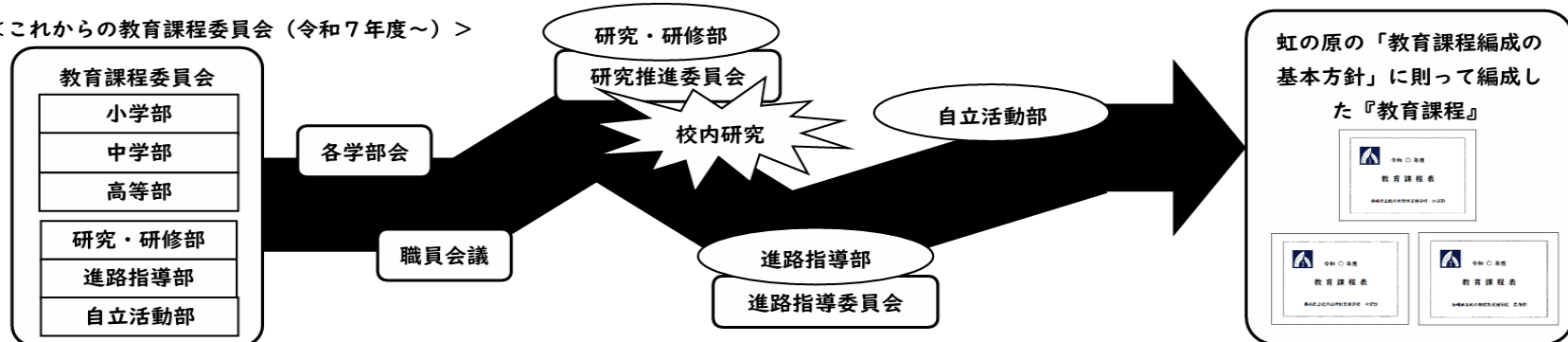
教務部、研究・研修部、進路指導部、自立活動部

<これまでの教育課程委員会（～令和6年度）>



- 「教育課程委員会」が各部の課題やその年の取組事項、進捗状況の共有の場になっていた。→ 各部ごとの取組、各部ごとの教育課程になってしまう・・・
- 「研究・研修部」、「進路指導部」、「自立活動部」、「生活・生徒指導部（R6のみ）」も教育課程委員会の構成員であったが、カリキュラムマネジメントにおいてあまり関わることがなかった。
- 校内研究とリンクすることが少なく、「校内研究」と「教育課程編成」が別々に進んでいた。

<これからの教育課程委員会（令和7年度～）>



- 学部ごとではなく、学校として目指す方向性を明らかにし、「教育課程委員会」が先頭に立ってカリキュラムマネジメントを推し進める！！
- 目指す方向性と取組に合わせて「他分掌」や「各種委員会」と関わりながら、カリキュラムマネジメントを進めていく！！（関わる分掌部や委員会は変化する。）
- 校内研究ともリンクしながらカリキュラムマネジメントを進めていく！！
- 各部の課題を改善し、学部ごとの特色を出しながらも、学校としての方向性「教育課程編成の基本方針」に則った教育課程を完成させる！！